

こうつう  
あんぜん

5級 杉本はやと

天文だいて  
ほしを見る。

三段 白井 小春

年まつに親と  
そばを食べた。

三段 小西 悠菜

二階の部屋に  
荷物を運んだ。

準三段 浅原 ほのか

ふり積もった落ち葉  
の上を歩く。カサカサ  
と音がして楽しい。

準三段 内尾 衣七

寒くなり暖ぼう器具  
を準備する。好物のグラ  
タンが食べたくなる。

二段 三宅 崇士郎

機能性を兼ね備えた  
町家の格子窓は美しい  
景観を作り出している。

準六段 小原 清美

こうつう  
あんぜん

7級 たいら

天文だいて  
ほしを見る。

準三段 小濱 はや斗

年まつに親と  
そばを食べた。

準三段 山本 眞奈美

二階の部屋に  
荷物を運んだ。

二段 小寺 想乃

ふり積もった落ち葉  
の上を歩く。カサカサ  
と音がして楽しい。

二段 松井 緒美

七五調のリズムは日本  
語の詩歌の伝統的な  
形式で響きが美しい。

準六段 加藤 百音

機能性を兼ね備えた  
町家の格子窓は美しい  
景観を作り出している。

五段 寺田 寧々

川で大きな  
ふねにのる。

3級 中村 ゆうか

天文だいて  
ほしを見る。

二段 武田 えま

年まつに親と  
そばを食べた。

二段 吉井 康敏

二階の部屋に  
荷物を運んだ。

準二段 植手 涼介

寒くなり暖ぼう器具  
を準備する。好物のグラ  
タンが食べたくなる。

四段 枝川 菜月

七五調のリズムは日本  
語の詩歌の伝統的な  
形式で響きが美しい。

五段 桑田 絵麻

機能性を兼ね備えた  
町家の格子窓は美しい  
景観を作り出している。

準五段 中村 沙羅

川で大きな  
ふねにのる。

4級 喜田 かなで

天文だいて  
ほしを見る。

準二段 北川 あさ

年まつに親と  
そばを食べた。

準二段 西谷 源哲

ふり積もった落ち葉  
の上を歩く。カサカサ  
と音がして楽しい。

四段 小山 恵奈

寒くなり暖ぼう器具  
を準備する。好物のグラ  
タンが食べたくなる。

準四段 大矢 珠乃

七五調のリズムは日本  
語の詩歌の伝統的な  
形式で響きが美しい。

準五段 大槻 龍平

深い意味を簡潔な言葉  
で表した山頭火の句は、  
受け手の想像が膨らむ。

準六段 川田 育子

川で大きな  
ふねにのる。

5級 浦崎 駆

天文だいて  
ほしを見る。

初段 上杉 咲陽

二階の部屋に  
荷物を運んだ。

準四段 滝川 蒼人

ふり積もった落ち葉  
の上を歩く。カサカサ  
と音がして楽しい。

準四段 高田 楓花

寒くなり暖ぼう器具  
を準備する。好物のグラ  
タンが食べたくなる。

三段 後藤 幸典

七五調のリズムは日本  
語の詩歌の伝統的な  
形式で響きが美しい。

四段 藤本 結士

深い意味を簡潔な言葉  
で表した山頭火の句は、  
受け手の想像が膨らむ。

五段 木下 登美恵

川で大きな  
ふねにのる。

6級 高田 藍之介

年まつに親と  
そばを食べた。

準四段 金崎 涼介

二階の部屋に  
荷物を運んだ。

三段 石場 旭

ふり積もった落ち葉  
の上を歩く。カサカサ  
と音がして楽しい。

三段 竹谷 嶺

寒くなり暖ぼう器具  
を準備する。好物のグラ  
タンが食べたくなる。

準三段 藤木 重

七五調のリズムは日本  
語の詩歌の伝統的な  
形式で響きが美しい。

準四段 渡邊 一花

深い意味を簡潔な言葉  
で表した山頭火の句は、  
受け手の想像が膨らむ。

準五段 石田 尚美